



2020 年度 NGO 海外援助活動助成

完了報告レポート Vol.1

一般財団法人 ゆうちょ財団
国際ボランティア支援事業部



はじめに

当財団の NGO 海外援助活動助成事業につきまして、平素からご理解・ご支援を賜り有難うございます。

2020 年度の助成につきましては、2020 年 1 月に助成先 11 団体を決定し、1 年間の活動実施を経て、このたび 5 団体から完了報告書を受領しました。これらをもとに各々の活動等の概要をとりまとめましたので、2020 年度「NGO 講演会等助成レポート」とあわせてご高覧いただけますと幸いに存じます。

また、当財団といたしましては、完了報告書を受領した 5 団体について、当初の申請どおり活動が適正に実施されていることを会計面も含め確認いたしましたので、下記のとおり各団体にお支払いしたことをご報告申し上げます。

なお、今回掲載されていない 6 団体の活動等につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、実施期間を最長 1 年間延長しておりますので、完了報告書の受領後に、別途とりまとめる予定です。

各団体の熱心な活動に敬意を表するとともに、今後のますますの事業発展をお祈りいたします。

2021 年 8 月

一般財団法人 ゆうちょ財団
理事長 高橋 亨

2020年度NGO海外援助活動助成団体			最終助成決定額
J 枠	1	特定非営利活動法人アジアの子どもたちの就学を支援する会	670,000
	2	特定非営利活動法人幼い難民を考える会	883,069
	3	特定非営利活動法人地球の友と歩む会	943,839
	4	特定非営利活動法人ラブグリーンジャパン	996,212
S 枠	5	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会	682,443

*J 枠：過去 2 年間の事業収入平均が約 5,000 万円未満の団体

S 枠：過去 2 年間の事業収入平均が約 5,000 万円以上の団体

目次

2020年度「NGO海外援助活動助成完了報告レポート」

5団体（50音順）

<J枠>

- 1 特定非営利活動法人アジアの子どもたちの就学を支援する会 1
- 2 特定非営利活動法人幼い難民を考える会 2
- 3 特定非営利活動法人地球の友と歩む会 3
- 4 特定非営利活動法人ラググリーンジャパン 4

<S枠>

- 5 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 5

2020年度「NGO講演会等助成レポート」

1団体

- 1 「NGO講演会等助成レポート」について 6
- 2 特定非営利活動法人地球の友と歩む会 7
- 3 アンケート結果 9

団 体 名：特定非営利活動法人アジアの子どもたちの就学を支援する会
助成活動名：最貧困家庭の母親達による、子どもの教育費用を得る為の縫製活動
「Mother to Mother」の普及と強化
活 動 地 域：カンボジア王国 シェムリアップ州バンテスレイ郡ルムチェック村
トロピアンブレイ村
団 体 本 部：〒197-0825 東京都あきる野市雨間 429 多摩川幼稚園内
HP アドレス：<https://www.asap-cambodia.org/>
設 立：2007 年

当団体は、2007 年に小学校へ校舎を寄贈することから現地での活動が始まりました。2009 年から開始した「Mother to Mother」は、裁縫が苦手な日本の母親に代わって、現地の貧しい家庭の母親が日本の幼稚園や小学校で使う布製品を手縫いで作り、日本国内の幼稚園・学校や現地シェムリアップにある土産店 6 店舗で販売し、子どもの教育費用を得るという両国の母親の助け合いの活動です。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、日本国内の幼稚園や保育園等でのイベントが中止となったうえに、現地では観光業が軒並み影響を受け、お土産店がすべて休業又は閉店してしまいました。さらには日本から生地等の輸送が停止したことから、現地の縫製作業量が前年と比べると 7 割程度となり売上額も前年比 6 割程度（約 209 万円）に減少しました。

しかし、当団体はネットショップでの販売強化により、前年比で 3 倍近い金額を売り上げ、新型コロナウイルス感染症による日本国内での影響を前年比 20%減に留めることができました。それにより、22 名の現地の母親たちへ年間 1 名あたり平均 216 ドルの報酬を支払うことができました。

また、カウンターパートである現地教員が日本で 1 年間日本語及び縫製技術を学び 2020 年 3 月に帰国したことにより、日本人がこれまで実施してきた現地への指示や連絡業務を担うことができ、日本人の渡航が困難な状況下においても活動を継続できる体制となりました。

縫製作業の様子



報酬を受け取る母親たち



団 体 名：特定非営利活動法人幼い難民を考える会
助成活動名：就学前教育の充実のための保育教材研修・配布プログラム 質の高い就学前教育の普及
活 動 地 域：カンボジア王国 コンポンチュナン州コンポンチュナン市、ポリボー郡、サマキミアンチェイ郡、コンボンレン郡
団 体 本 部：〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 3B
HP アドレス：https://www.cyr.or.jp/
設 立：1980 年

当団体は、ひとりでも多くの子どもたちが適切な幼児教育を受けられるよう、教育省や地域行政と連携しながら、絵本等の保育教材を公立幼稚園や、当団体が支援している「村の幼稚園」へ提供するとともに、保育者への研修を実施してきました。

これらの活動は、保育教材の目的や使い方を保育者に理解してもらった上でカリキュラムの中でどのように活用するか指導することを目的としています。そして、提供された保育教材が幼稚園で使われることにより、遊びに広がりが出て、子どもたちが文字や色に親しみ、絵本や人形遊びを通して情緒を育み、楽しみながら心身を成長発達させることを期待しています。

今年度は、コンポンチュナン州 1 市 3 郡の公立幼稚園 96 クラスに、4 種類の絵本、木製の車パズル、子音パズル、布人形、布ボール等の保育教材を提供し、各クラス 1 名ずつ合計 96 名の保育者を対象に、研修を実施しました。

新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、2020 年 3 月から国内の学校が休校となりましたが、当初は感染者数が少なく、8 月に集中して研修を実施することができました。

また、昨年度研修を実施した 4 カ所の公立幼稚園にて実際に提供した絵本や教材がどのように子どもたちに使われているかをモニタリングし、再度使い方についてフォローアップ研修を実施しました。

研修を受ける保育者たち



子音パズルで遊ぶ子どもたち



団 体 名：特定非営利活動法人地球の友と歩む会

助 成 活 動 名：水道組合設立および住民主体の持続的な水道事業運営に向けた基盤構築事業

活 動 地 域：インドネシア共和国 バリ州 プレレン県 プダワ村

団 体 本 部：〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-2-2 東京三和ビル 503

HP アドレス：<https://earth-ngo.jp/>

設 立：1986 年

バリ島北部の山間部に位置する、人口約 5,000 人のプダワ村では、住民が自主的に水道事業を運営していますが、水道事業の責任の所在が不明確、かつ給水設備の維持管理に関する技術不足により、限られた水源の適切な利用、効果的な給水設備維持管理が実施できていないため、住民は数日に 1 度、数時間しか水道水を利用できません。それにより、シャワーを我慢する、遠方への水汲み、下水を未処理のまま再利用する等の対応に迫られており、住民の生活及び健康が脅かされています。

当団体は、プダワ村の既存の給水設備を利用し、住民が主体となって、今後 3 年間で「プダワ村すべての人がいつでも安全な水へアクセスできる給水システムの実現」を目指す計画を立てました。そして、現地で専門家を追加雇用することにより、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による日本人の渡航制限を補いました。

1 年目である今年度は、まず、給水事業を主体的に実施する組織として水道組合を設置しました。そして、この水道組合が主体となって様々な活動を実施し、給水事業運営のノウハウを蓄積しました。

第一に、既存の給水設備システムの基礎データ及び住民のニーズを元に、給水設備の工事計画を作成しました。

第二に、水道組合員を対象とした給水設備の維持管理研修を実施し、のべ 158 名の参加を得ました。

第三に、住民を対象とした水源共有に向けた節水の重要性、水道料金徴収への理解促進等を目的とした水利用に関する研修を実施し、のべ 150 名の参加を得ました。

第四に、バリ島の公共インフラ管理を統括する政府機関の専門家の助言を取り入れながら、給水事業、給水設備の維持管理方法、水道料金に関する規定を明文化した給水事業運営計画書を作成しました。

給水設備の維持管理研修



水利用に関する研修



団 体 名：特定非営利活動法人ラブグリーンジャパン

助成活動名：低所得農家 30 世帯への家畜飼育支援による生計向上

活 動 地 域：ネパール民主共和国 カブレパランチョク郡 パンチカール市 第一区
(旧 アナイコット村)

団 体 本 部：〒247-0055 神奈川県鎌倉市小袋谷 2-2-39 ハーベストムーン 105 号室

HP アドレス：http://www.lovegreenjapan.org

設 立：1991 年

当団体は、活動地域において、これまで植林事業から代替エネルギーとしてバイオガス装置の導入、環境に負荷をかけない有機農業の普及へと支援を展開してきました。

今年度は、適切な乳牛の飼育が実施されていない低所得の農家 30 世帯を対象に、まず、衛生的な飼育環境を整備しました。具体的には、掃除がしやすいコンクリート製の牛の餌場の設置や、有機農薬作りや肥料作りに活用するために、餌場のスロープから流れる牛の尿を集めて貯めておくピット（小さなため池）の設置を行いました。

また、専門家による研修を実施しました。糞尿を活用した堆肥作りの研修では、女性たちを中心に 32 名が参加し、牛の適切な飼育の仕方を学ぶ研修では、34 名が参加しました。

さらに、当団体が運営する有機農業センターのデモ農場にて栽培した優良牧草を、対象農家に限らず合計 60 世帯の周辺農家へ配布しました。これらの牧草は、農家が自宅周辺に植栽して増やすことができ、栄養価の高い牧草を継続的に牛の餌にできるようになりました。

新型コロナウイルス感染症の感染が拡大したため、研修は感染状況が落ち着いてから実施し、活動は現地カウンタパートのスタッフを中心に実施しました。対象とした低所得の農家 30 世帯は、他にも予防接種、牛の糞による寄生虫検査等、リスクの高い畜産飼育に対応できるよう取り組み、衛生的な環境で牛を飼育することができるようになりました。今後は、牛乳の品質向上・生産量増と現金収入の安定が期待できます。

牛の尿収集ピット



有機堆肥作り研修



団 体 名：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

助成活動名：「図書館活動を中心とした CLC」の自立運営に向けた基盤強化活動

活 動 地 域：カンボジア王国 シェムリアップ州、バンテイミンチェイ州、コンポントム州内の 6 地域

団 体 本 部：〒160-0015 東京都新宿区大京町 31 慈母会館 2・3 階

HP アドレス：<https://sva.or.jp/>

設 立：1981 年

近年のカンボジアは経済成長が進む一方で、都市部と農村部での格差が深刻化しており、その背景には教育が関係していると考えられます。農村部には非識字者が未だに多く存在する一方で、彼らに対する支援は十分に行き届いていません。

当団体は、そうした状況にある現地の貧しい 6 つの集合村に、図書館活動を中心としたコミュニティラーニングセンター（CLC）を建設し、図書サービスの提供や識字教室の開催、生計向上研修、スポーツ・文化活動の実施を通じて、内戦の混乱で教育の機会を奪われた人々に対する支援を実施しています。

今年度、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2020 年 3 月から国内の学校が休校となり、CLC も一時期、閉鎖や不定期での開館となりました。

しかし、こうした状況下でも、利用者がリクエストした書籍を 1 館あたり平均 52 冊配架したり、衛生用品を購入し、利用者が入館前後の手洗いやアルコール消毒に利用できる環境を整えた上で、識字教室、英語教室、さらに、移動図書館を活用した PR イベントを通して利用者の増加を図りました。これらの取組みと、外出が控えられがちな状況下でも開館を継続した結果、CLC 6 館の利用者数は、前年比 64%減少に留まり、のべ 29,397 名が CLC を利用しました。

また、CLC 6 館は 2018 年に各州の教育局に移管されていますが、教育局からの運営費に加え、それ以外の資金獲得方法や、CLC 利用者にさらに質の良い教育の機会を提供できるよう、各 CLC を運営する運営委員会を中心に研修を実施したところ、38 名が参加しました。

移動図書館を活用したイベント



CLC の外で実施した識字教室



「NGO講演会等助成レポート」について

当財団では、NGO海外援助活動助成を受けているNGOが、学校、地域団体等で国際協力及び国際支援の意識醸成を図るための講演会等を開催し、当該NGOの海外での活動状況等を説明する場合に、その経費の一部を助成しております。

概要は次のとおりです。

○助成する金額は、講演会等1回につき所要経費のうち5万円を上限とします。

ただし、助成回数は1団体につき1年1回とします。

○助成の対象とする団体は、NGO海外援助活動助成を受けている団体です。

○助成の対象となる講演会等は、次のとおりです。

- ・参加者（児童・生徒等を含む）が概ね30人以上見込まれる講演会等であること
- ・2020年4月から2021年2月末日までに開催する講演会等であること

○2020年度は1団体へ助成いたしました。

特定非営利活動法人地球の友と歩む会

1. 開催日：2020年12月11日（金）13時～14時30分
2. 開催場所：大分県中津市真坂小学校
3. テーマ：「生活環境、教育環境改善に取り組む国際協力の仕事」
4. 講師：桜井 高志（国際理解教育ファシリテーター）
米山 敏裕（当団体事務局長）
5. 参加者：46名
6. 内容：①インド農村部での教育事情
②インドネシアのスンバ島での給水施設建設、有機野菜づくり研修

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

講演会内容

■講演概要

国際理解学習の一環として小学校 5～6 年生を対象に実施した。当団体が支援をしているインド農村部での教育事情と、インドネシアのスンバ島での当財団から支援した給水施設建設ならびに有機野菜づくり研修について、スライドショーにより紹介した。

活動の成果を上げるため、また、進まないときに現地の人々とどのようにコミュニケーションを図っていくかを長年の経験や教訓、また、現地のこと分からない中で、何を大切に現地のの人々と付き合っていくかを説明した。

これまで当団体が支援してきた活動では、有機農業、女性の自立支援、給水環境改善、環境保全のための植林活動、子どもの教育環境改善活動等によって、現地の困窮する人々が希望を持って頑張っている様子をスライドで紹介した。海外で進めてきた活動の知恵を日本の地域社会でどのようにしたら生かせるのか、グローバル化が日本各地で進む中で、共にどのような社会を作っていけば良いのか、参加者ができること、みんなで取り組んでいけることについて話し合った。

また、異文化理解にもつながるものとしてインドで使われている調理器具、民族衣装サリーの着付け、紙幣を紹介し、多様性について考える講演会となった。

■参加者の感想

- ・インドはいつも暑い日ばかりだと思っていたが、雪が降ったりするところもあり、冬もあることに驚いた。
- ・お札に 15 の言葉が書かれていたり、200 以上の言葉が話されているが混乱しないのか不思議であった。
- ・通学でバスに乗っているスライドを見て大変だなと思った。振り落とされないか心配になった。
- ・女の子の水汲みの仕事が毎日あることは大変でいやになってしまわないか聞いてみたい。男の子などはなぜ手伝わないのか不公平でないかと思った。
- ・インドの小学校では落第となる場合があると知って大変だなと思った。補習クラスでは机や椅子のない地面で座ってやっているようすにもびっくりした。

当財団の NGO 海外援助活動助成を受けた活動の概要

■支援活動：インドネシア東スンバ島の低収入農家のための有機農業技術支援および給水設備整備事業

■実施期間：2018 年 4 月 ～ 2019 年 3 月

■実施地域：インドネシア共和国 東スンバ島モンドゥランビ村

① 「講演の様子」



② 「講演の様子」



2020年度NGO講演会等経費助成のアンケート集計結果報告書

全体の回答数：46

Q1：開発途上国への支援については、国同士が行っているほかに、本日の講演会等のようにボランティア団体（NGO）が住民等を対象とした支援・援助を行っていることを知っていましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	知っていた	7	15%
2	知らなかった	39	85%
3	未回答	0	0%

Q2：今日の講演を聞いて、内容について理解できましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	よく理解できた	7	15%
2	まあ理解できた	29	63%
3	理解できなかった	10	22%
4	未回答	0	0%

Q3：今後もいろいろなボランティア団体が開発途上国の住民等へ支援・援助することは必要だと思いますか。

回 答 内 容		回答数	%
1	必要だと思う	42	91%
2	国同士で行うだけで十分	2	4%
3	分からない	2	4%
4	未回答	0	0%

Q4：今日の講演を聞いて、また「現地からの報告」を聞いてみたいと思いましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	聞きたいと思う	13	28%
2	少し思う	30	65%
3	全く思わない	3	7%
4	未回答	0	0%

Q5：今日の講演を聞いて、ボランティア活動に参加してみたいと思いましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	すでにしている	2	4%
2	したいと思う	30	65%
3	特に思わない	14	30%
4	未回答	0	0%

Q6：今後もボランティア団体のこのような講演会を支援する助成活動事業は必要だと思いますか。

回 答 内 容		回答数	%
1	とても必要だと思う	15	32%
2	必要だと思う	22	48%
3	特に思わない	9	20%
4	未回答	0	0%

年代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	未回答
	98%	0%	0%	2%	0%	0%	0%	0%

男女比	男性	女性	未回答
	59%	41%	0%